

2026 年 1 月 11 日午前 10 時 30 分

降誕節第 3 主日 主日礼拝

司会 岡安茂能

奏楽 川名ひさ子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、  
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前 奏

招きのことば 詩編 149:1-5

讃美歌 277(1-3)「罪なき神の子」 一 同

交読詩編 36:6-10(P.43/39)

祈 り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

(主の祈り)

讃美歌 277(4-6)「荒れ野(い)でゆき」 一 同

聖 書 旧約:出エジプト 14:15-22(P.116)

新約:マルコ 1:9-11(P.61)

メッセージ『水を通して救われる』

祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 404「あまつましみず」 一 同

献 金 一 同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(インドネシアの信仰告白②) 一 同

頌 栄 312(5)

祝 祷 川上 盾 牧師

後 奏

報告・紹介

<招きのことば> 詩編 149:1-5

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。イスラエルはその造り主によって喜び祝い、シオンの子らはその王によって喜び躍れ。踊りをささげて御名を賛美し、太鼓や堅琴を奏でてほめ歌をうたえ。主は御自分の民を喜び、貧しい人を救いの輝きで装われる。主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み、伏していても喜びの声をあげる。

《1月礼拝当番》 伊藤普史 徳島恵子

村上直子 齋藤眞理子

横田喜一 横田こずえ

《今週の集会・行事》

◎ 本日 9:15 CS朝礼拝

◎ 本日-12 日 牧師「平和と種まきフェスティバル」(東京)

◎ 15 日(木) 10:30 婦人会例会

◎ 17 日(土) 10:00 会堂清掃 D 組

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『主の招く声』

聖書:旧約:エレミヤ書 1:4-10(P.1172)

新約:マルコ 1:14-20(P.61)

讃美歌 14, 195, 516, 28

交読詩編 100:1-5(P.113/109)

司会:伊藤普史 奏楽:金井文子

◎ 群馬地区教会協議会 1/18(日)15:30

内容: 兼牧について学び語り合う／高崎教会

《予 告》

◎ CS 午後礼拝 25 日 (日) 13:30

◎ 紅雲町集会 29 日 (木) 10:30

《報 告》

◎ 次週、教会協議会「兼牧について」

新潟地区より、実際に兼牧による教会活動をしておられる三条教会から牧師・信徒を招き、兼牧の実践について聞き、語り合います。どなたでも参加できます。15:30 より高崎教会にて。

◎ 関東教区 雪堀りツアー (2/18-22)

恒例の雪堀りツアーが今年も開催されます。十日町教会を拠点に雪堀りで汗を流し、「人のために働くこと」「共に生きること」を学びます。このツアー参加者から教会の災害支援ボランティアが生み出されている有意義なプログラムです。詳しくは掲示板の案内をご覧ください。

◎ 1 月役員会報告 (抄)

①12 月教会行事の反省… ＊クリスマス関係の行事の際には、駐車場をうまく詰めるための誘導係が必要 ＊キャンドルサービスの最後の燭台を置く時や、葬儀の最後の献花の時には、誘導係が必要。 ＊クリスマス献金からの対外献金先は 10 万円の予算で案分する。

②創立 140 周年に関する件 … ＊記念イベントの候補として、(a) 萬田緑平さん(終末医療)、(b) 故中村哲さん(ペンシャワール会)のスタッフ、(c) 戦争の語り部、といった意見が出されている。 ＊140 年誌は各担当者に執筆をうながす。

＊案内看板・パンフレットのリニューアルは、ホームページの構成とも連動して考える必要がある。 ＊記念募金は、大枠として 500 万円(記念事業 100 万、屋根改修の一部費用 400 万)、3 年間の募集期間として考えている。 // 以上のことを 1 月 18 日の礼拝後に報告し、意見を求める。

③群馬地区総会議員(3/15) 植松みよ

④その他…会計用に必要なノートパソコン(9 万円)を購入する。(文責=川上)

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	57	24	29,350
	昼( )	夜	計
聖研祈禱会	10	5	15

《メッセージ》「視点の転換」

ゼカリヤ 8:1-8、ルカ 2:41-52(1 月 4 日)

▼「エルサレム(こ)は老爺・老婆が座し、わらべとおとめが溢れ、広場は笑いさざめく」。2026 年最初に朗読された聖書の言葉である。昨年のクリスマス礼拝前後、前橋教会はまさにこの言葉の通りの光景に包まれた。教会員の召天、それによる会員の減少…教会の将来に不安を感じさせられる出来事もあるが、そんな現状を嘆くのでなく、そんな中にも笑い声を導き出して下さる神への信頼を抱き、新たな年を始めたい。▼先日見たパレスチナの現実を描いたドキュメンタリー映画の中で、爆撃される現地で活動を続ける女性フォトジャーナリストが「この状況にも神が与えられる意味がある」と語ったシーンで、宗教は違うが信仰の強さを感じた。それは「視点の転換」を持つことができる強さである。▼最近私は、この「視点の転換」にそが信仰の重要なポイントではないかとの思いを強めている。人生の危機・ピンチの時に「自分中心」の視点しか持たないでいると、危機は重くのしかかる。しかしそこで視点を転換して、「世界の中の自分」と世界中心・神中心で受けとめる時に、行き詰まった心に風穴が開けられる…そんな風にして、過酷な現実の中をそれでも押しつづされずに生きる「強さ」が与えられるのである。▼新約はイエスの少年時代のエピソード。ユダヤ教最大のお祭り・過越祭に一家で参加した帰りの道、はぐれてしまったイエスを捜して母・父が右往左往する姿が描かれる。3 日目になって(！)やっとイエスを見つけると、イエスは神殿で学者たちと語り合っていたという。夢中になった少年は後先忘れて行動することがよくある。イエスもそんな少年の一人なのであった。▼見つけたマリアは「なぜこんなことをしてくれたのです？ みんなが心配して捜しているのに…」そう言ってイエスを非難する。するとイエスは答えられた。「どうして捜すんです？ 私が父の家(こ)にいることを知らなかったのですか？」な・なんと生意気な！…そう思うだろうか。しかしこの言葉が示すのは、イエスの神に対する大きな信頼である。▼イエスを捜す両親は「自分の視点から抜け出せない。だから息子がいなくなったことによって慌てふためく。しかしイエスは「どこにいても、私たちは神の大きな守りの中(こ)にいる」と言われる。この答えこそ「視点の転換」である。▼成長したイエスは「空の鳥、野の花を見よ。明日のことを思いわずらうな」と教えられた。私たちは毎日の暮らしのことですべし「思いわずらって」しまふ。なぜだろうか？ それは「自分にとっての明日/世界」、すべてをそのように考えているからではないだろうか。けれども、そのような「自己中心性」から離れるのは難しい。▼それを変えてくれるのが信仰だ。「自分にとっての世界/神さま」ではなく、「世界の中の自分、神さまあつての自分」…そんな風に認識そのものをひっくり返してくれる。「自分中心」から「世界/神さま中心」へと変えられていく時、思い悩みから解放されるのだ。